The 2nd Seminar of the Center for AI-Driven Social Transformation (Neo Excellent Core)
令和8年度 第2回 AI駆動社会変革推進拠点 ネオ･エクセレントコアセミナー

生成AIと研究をどう進めるか
― 論文の読み比べから、仮説を確かめるコードづくりまで

講演者

小武 三博氏

OpenAI　User Operations,
Senior Support Engineer

阪口 福太郎氏

OpenAI Japan合同会社
GTM Account Director（教育機関担当リード）

開催日時

2026年12月8日（火）
16:00～17:00

会場

情報科学系講義棟2階
大講義室

使用言語

日本語

講演要旨

同じテーマの論文を二本読んだのに、結論が食い違っている。そんなとき、ChatGPTにどんな問いを投げかけますか。本セミナーでは、OpenAIの取り組みを紹介しながら、大学院で身近なこの場面を出発点に、生成AIとともに研究を進める過程をたどります。二本の論文がそれぞれ何を、どの条件で測ったのかを整理し、原文の図表に戻って違いを確かめる。そこから「自分のデータで何を試せば、この違いを説明できるか」という次の研究の問いを立てます。

続いて、その問いを分析コードに落とし込む場面を取り上げます。たとえば、データをまとめて描いたグラフと、実験条件ごとに分けて描いたグラフで、見えてくる傾向が変わったら、どう解釈するでしょうか。Codexを使って分析方法を試し、コードの前提や結果の妥当性を自分で確かめるまでを例に、AIに任せられる作業と、専門知識を持つ研究者自身の判断が生きる場面を考えます。

研究で培った「問いを立て、試し、結果を疑う力」は、企業のエンジニアの仕事でどう生きるのでしょうか。OpenAIでの働き方にも触れながら、研究とキャリアの両面から皆さんの疑問にお答えしたいと思います。ぜひ、いま研究室で行き詰まっていることや、次のゼミまでに試したいことを一つ思い浮かべてご参加ください。

講演者略歴

小武 三博（こたけ みつひろ）
OpenAI　User Operations, Senior Support Engineer

ソフトウェア開発やシステム運用を経て、Amazon Web Services（AWS）で約10年間、クラウドの技術支援に従事。2025年にOpenAIに参画。現在は、利用者が直面する技術的な課題の調査・解決に携わり、自身も日々の調査やコードの検証にCodexを活用している。松江工業高等専門学校では、エンジニアとしてのキャリアをテーマに講演。

阪口 福太郎（さかぐち ふくたろう）
OpenAI Japan合同会社　GTM Account Director（教育機関担当リード）

日立ソリューションズでシステムエンジニアを務めた後、マイクロソフトで約18年間、企業の技術戦略や教育機関のDX・AI活用、人材育成に携わる。香川大学客員教授、立命館大学社会共創アドバイザーを歴任。2026年にOpenAIに参画し、日本の大学・研究機関とともに、授業や研究の現場での生成AI活用に取り組んでいる。

お問い合わせ先　AI駆動社会変革推進拠点長　上原　隆平
uehara@jaist.ac.jp